

子どもたちの安全を守る

昨年末、府内の小学校に不審者が侵入し、二人の児童にけがを負わせるという事件が発生しました。

京都府教育委員会では、事件後、速やかに臨床心理士の派遣など学校への支援を行うとともに、市町村教育委員会と連携し、各学校(園)における安全管理の再点検を実施しました。さらに、関係機関・団体の協力を得て、学校・家庭・地域社会が一体となって子どもたちの安全を確保するよう全力をあげて取り組んでまいります。

●緊急校(園)長会議で危機管理の再徹底

事件発生後、すべての校種で緊急校(園)長会議を開催し、事件概要を把握し、安全管理に対する意識を高めるとともに、不審者の侵入を想定した警察官による実技指導を行いました。また、学校内の安全点検や防犯訓練の実施などの徹底を図りました。



府内すべての緊急校(園)長会議において、警察官による緊急事態対応の実技指導を実施



●危機管理マニュアルの改訂版を発行

京都府教育委員会は、市町村教育委員会連合会、PTA、警察本部、校長会の協力を得て、平成13年7月に作成した「幼児児童生徒を凶悪な事件から守るための手引」を本年2月中旬に改訂しました。

今後は、各学校で危機管理マニュアルを見直し、実効ある危機管理体制の整備に活用していただくこととしています。



府内の学校では、教職員や児童生徒対象の防犯・避難訓練に取り組んでいます。



●学校・家庭・地域社会の連携

市町村(組合)教育委員会、学校、PTA等において、幼児児童生徒の安全確保及び学校の安全管理について、さまざまな取組が実施されています。

京都府教育委員会では、このような取組がより一層充実し、21世紀を担うかけがえのない子どもたちが、学校や地域で安心して過ごせるよう、本年1月中旬までに関係団体・機関に、子どもたちの安全にかかわって心配と思われる情報の提供やパトロールへの参加など地域で子どもを育てるネットワークづくりについて、協力を要請しました。

○ 協力要請団体・機関

- | | |
|------------------|-------------------|
| ◇ 社団法人京都府青少年育成協会 | ◇ 財団法人京都府老人クラブ連合会 |
| ◇ 京都府少年補導連絡協議会 | ◇ 社団法人京都府少年補導協会 |
| ◇ 京都府民生児童委員協議会 | ◇ 京都府保護司会連合会 |
| ◇ 京都府更生保護婦人連盟 | ◇ 京都中央郵便局 |

なお、従来から、京都府教育委員会と連携いただいている京都府連合婦人会等の社会教育関係団体にもあらためて同様の協力要請を行いました。

PTAや校長会の8者が連名で緊急アピール「かけがえのない子どもたちの安全を確保するために」を出され、子どもたちが二度と凶悪な事件の犠牲とならないように強い決意のもと、さまざまな取組が進められています。

緊急アピール 「かけがえのない子どもたちの安全を確保するために」

12月18日、宇治市立宇治小学校に刃物を持った男が侵入し、二人の児童にけがを負わせるという大変痛ましい事件が発生し、大きな衝撃を受けています。

負傷されました二人のお子様の一日も早い御回復をお祈り申し上げます。

日野小学校や池田小学校などの子どもたちが犠牲となった事件の記憶も薄れることがないまま、今回、再び子どもたちの生命を脅かす事件が発生したことに、私どもは憤りを禁じ得ません。

これまでから、府内の学校・園とそれぞれのPTAは緊密な連携を図りながら、学校・園を子どもたちにとって、安心して学び、活動できる場にするため、登下校時はもとより学校内外の安全確保に取り組んでまいりましたが、今後一層その取組を徹底していかなければなりません。

そのために、私たちは今回の事件をしっかりと受け止めて、子どもたちが二度と凶悪な事件の犠牲とならないよう強い決意のもと、次の取組を進めていきます。

- 各校園長は、それぞれの学校・園で、警察等関係機関・団体、保護者との連携を図りながら、日常的な安全点検や計画的な校内巡視に努めるとともに、施設管理の在り方等について再検討し、子どもたちの安全確保のための体制を一層充実します。
- 各PTAは、学校と連携し、校内巡視に協力するなど具体的な取組を進めるとともに、地域の青少年育成団体や警察等関係機関とも密接な連携を図りながら子どもたちの安全確保に一層努めます。

学校・園、PTAは、かけがえのない子どもたちの命を守り、安全を確保するための取組を進めていきたいと考えておりますので、府民の皆様のご協力をお願いいたします。

平成15年12月19日

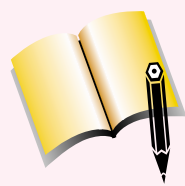
京都府公立幼稚園PTA連絡協議会
京都府PTA協議会
京都府立高等学校PTA連合会
京都府立高等学校定時制郡部育友会連合会
京都府下公立幼稚園園長会
京都府下小学校長会
京都府下中学校長会
京都府立高等学校長会

盲・聾・養護学校に ホットライン

府立盲、聾、養護学校に非常通報装置を設置

京都府教育委員会は、すべての府立盲、聾、養護学校において、不審者侵入等の緊急事態の発生時に、非常用ボタンを押すと自動的に警察へ通報できるシステムを導入することとし、本年1月から全校で運用を開始しました。

府立盲、聾、養護学校には、これまでから児童生徒の安全対策として監視カメラやインターホン、防犯ブザー等を設置していますが、今回の整備により、緊急事態発生時に警察への迅速かつ的確な通報と警察官の速やかな対応が可能となり、非常時における児童生徒の安全確保に役立てます。



一人一人の子どもに応じた学びをつくる



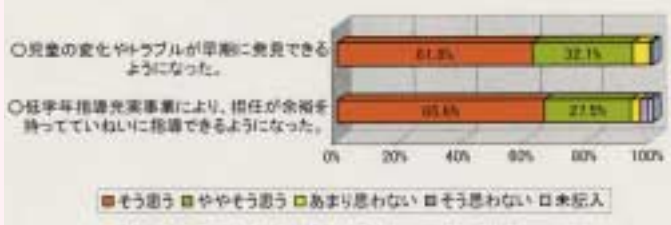
～多様で豊かな京都府の教育～

子どもたちの学習に向かう構えや分かっていく過程などは一人一人異なっており、学習内容の理解の程度や興味・関心などに応じて学校では、可能な限り“個に応じた”指導が求められています。京都府では、一人一人に応じたきめ細かな学習指導を進めるために、「まなび教育推進プラン検討会議」からの提言やアンケートの結果などを踏まえ、義務教育9年間の児童生徒の発達段階や課題を見通した多様な少人数教育を推進しています。

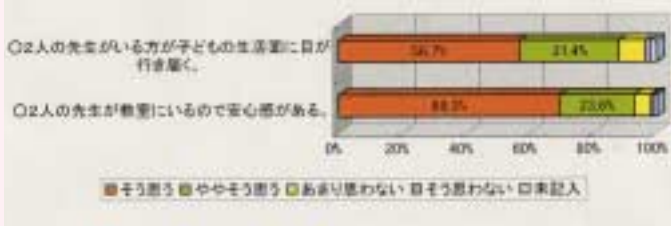


高い評価をいただいています。
～小学校低学年の2人の先生による指導充実～
「まなび教育推進プラン検討会議」が実施したアンケートでは高い評価と期待が寄せられています。今後、30人以下の学級においても課題がある場合は市町村教育委員会と協議し、柔軟に運用できるようにします。

先生へのアンケート(校長、1・2年生担任131名)から



保護者へのアンケート(3682名)から



小学校中学年での少人数授業を充実していきます。
～パブリックコメントからも充実へ大きな期待～
「学力に大きく差がつく中中学年でこそ実践を深めてもらいたいと思います。」などの声が多く寄せられました。

小・中学校を滑らかにつなぎます。
～中学校の先生が小学校で授業：専科教育の充実～
年間指導計画や指導案の作成に小・中学校の先生が協働で取り組んだり、授業技術などを相互に交流・交換するなどして、今後とも学力充実に向けて効果を高めていきます。

なお、「まなび教育推進プラン」のパブリックコメントでは「少人数学級」を希望する声も寄せられました。府教育委員会では、平成16年度から、小学校中学年以上においては、少人数授業に加え、児童生徒の状況を把握しやすい「少人数学級」も選択して実施できるようにします。

がんばる京都府の小学校

約8割の問題で正答率が上がる

小学校基礎学力診断テスト／9年前と同じ問題による比較

京都府では府内の全小学校の4年生と6年生を対象に基礎学力診断テストを実施しています。平成15年4月の実施分では、旧学習指導要領と新学習指導要領の下での児童の学力状況を比較し、今後の指導方法の改善に生かすため、過去(平成6年度)に出題した問題と同一の問題を約3割出題しました。

その結果、同一問題での正答率は、8割以上が平成6年度を上回っていることがわかりました。これまでのティームティーチングや少人数授業に取り組んできた成果の一端と考えられます。

また、中学校でも本年度から府内すべての2年生を対象に、国語、数学、英語の3教科で「学力診断テスト」を実施しました。その結果に基づいて府総合教育センターで講座を開き、各校での指導方法の工夫・改善を促進することとしています。



グラフは、6年生の算数の状況を表しています。全25問中7問が同一問題で、平成6年度を100とすると、平成15年度では7問中6問が平成6年度を上回っていました。

きょういく



弥栄町立鳥取小学校

本校では、毎年、児童会活動の一つとして、ユニセフ募金に取り組んでいます。総合的な学習の時間でユニセフについて学ぶ中で、世界中の貧しい子どもたちの役に立っていることを知り、親からもらった小遣いではなく少しでも自分たちの力で募金したいと思い、遠足で拾い集めた貝殻、小石、サンドグラスを材料にして額、文鎮などの小物を作り、バザーで販売しました。



全校で取り組んだユニセフ(国連児童基金)募金活動

バザーでは、子どもたちは、恵まれない世界中の仲間の役に立つことへの喜びや自らの労働を通してお金を得ることの大変さを感じた一日となりました。

園部町立園部第二小学校

「知」と「心」を育む ～学校図書館教育の実践～

園部第二小学校では、学校図書館の持つ機能(読書・学習・情報センター)を生かした教育実践を充実させることにより、子ども達に「知」と「心」をはぐくんでいきたいと研究実践を進めています。

各教科や総合的な学習の時間などに図書館活用や読書活動を積極的に取り入れ、図書室は、読みたい本を探す子、一心に本を読む子、本や様々なメディアで調べる子、調べてまとめたことをホームページで発信する子などで、いつもいっぱいです。

特に、「園部二小の子どもは地域のみんなで育てていこう」と4年前から始まった地域や保護者の皆さんによる「朝の読み聞かせ」は、こうした本好きの子ども達を育てる大きな力となっています。



地域での豊かな体験活動の充実に向けて

は、市町村や関係団体の協力を得ながら、地域で子どもたちを育てる環境の充実に向けた取組を推進しており、府内の多くの市町村では、「京のわくわく体験活動推進事業」、「地域ふれあい交流事業」などを



京の百景に指定された公園のクリーン作戦

学校週5日制の完全実施を踏まえ、学校、家庭、地域社会がより一層連携しながら、子どもたちに豊かな心をはぐくむことが求められています。

京都府教育委員会では、市町村や関係団体の協力を得ながら、地域で子どもたちを育てる環境の充実に向けた取組を推進しており、府内の多くの市町村では、「京のわくわく体験活動推進事業」、「地域ふれあい交流事業」などを活用しながら学校や公民館等の身近な施設を会場として、スポーツや創作活動、キャンプなど、地域の子



お寺の境内で採集した葉や実を使った工作

また、これらの取組には、子どもたちの活動を支援するボランティアとして、地域の人たちに積極的に関わっていただいたり、府立高校の生徒が活躍したりしています。

活動に参加した子どもたちやその保護者の方々からは、「これからも、いろいろな体験ができる機会をつくってほしい。」などの感想が寄せられています。

今後も、府内市町村や関係団体と連携しながら、子どもたちの地域での豊かな体験活動の充実を図っていきたいと考えています。

教育相談サイト



「子どもの心が見えなくて心配だ。」という声に応え、「気になる子」のサインを「背のびしているよい子」、「登校できない」、「暴力をふるう」、「キレる」など10の態様に分類し、それぞれの理解と対応の在り方を掲載しました。どこから読んでいただいても、子育てや学校の教育活動に役立てていただける内容です。

さらに、通常学級で学ぶLD（学習障害）やADHD（注意欠陥/多動性障害）、高機能自閉症等と思われる児童生徒の教育活動をサポートするため、「LD・ADHD高機能自閉症等のサポートマニュアル」を新たに掲載しました。担任の先生が指導に困難を感じる例

をもとに、支援の手立てを考えていく「演習のページ」など実用的な内容となっており、『みえますか？子どものサイン？』と同様におおいに活用されることを期待しています。（<http://www1.kyoto-be.ne.jp/ed-center/>）

トータルアドバイスセンター

（電話または来所）

子どもの発達、いじめや不登校などの学校教育や、子育てやしつけなどの家庭教育に関することについて精神科医や臨床心理士などが相談を受けます。

	府総合教育センター内 （伏見区）	府総合教育センター 北部研修所内 （綾部市）
来所教育相談	月～金〔祝〕を除く 10:00～17:00（電話で予約が必要です）	
電話教育相談	毎日〔祝〕を除く 8:30～20:30 ☎075-612-3268 ☎075-612-3301	月～金〔祝〕を除く 10:00～19:00 ☎0773-43-0390

気になる子の理解と対応「みえますか？子どものサイン？」及び「LD・ADHD・高機能自閉症等のサポートマニュアル」をHPに掲載

<http://www1.kyoto-be.ne.jp/ed-center/>



～人権を大切にする心を育てるために～

京都府内の学校では、基本的人権を尊重する心や同和問題をはじめとするさまざまな人権問題についての正しい理解や解決しようとする態度を育てる学習を進めています。

その一環として、ポスターや標語を作成し、人権について考える学習の機会を積極的につくっています。

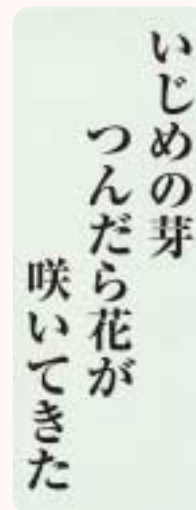
作品づくりをするとき、子どもたちは、人権について改めて考え、自分たちに関わる題材を選んでいきます。生活の中のさまざまなできごとを人権という視点に立って、気づいたことや思ったことを絵や標語に表現することを通して、豊かな感性をはぐくんでいます。

本年度も「人権擁護啓発ポスターコンクール」や「みんなで創る人権五・七・五標語コンクール」に、多くの作品が寄せられました。

子どもたちの作品をご覧になり、一緒に人権の大切さについて考える機会にしていきたいと思います。



京都府教育長賞
京田辺市立桃園小学校6年
沼田 美紅 さん



小学生の部・最優秀賞
亀岡市立亀岡小学校6年
神野 莉衣奈 さん

大山崎町立大山崎小学校

「自ら学び、確かな学力をめざして」 ～ 司書教諭の取組から ～

本校では、2年前から図書ボランティアの方々が、本の貸し出しや修繕、読み聞かせを引き受けてくださっています。今年度からは、国語科等で学級担任と司書教諭でチームティーチング授業をするなど読書の楽しさを伝える授業も積極的に進めてきました。先日、「先生、木いちごあるところ、見つけたよ。」と、科学読み物を読み聞かせした2年生の児童が声をかけてくれました。児童の興味や発想を大事にしながら、担任の先生と協力して行った授業に、児童は目を輝かせ、耳を傾けていました。

「利用しやすく夢のある図書館づくり」を実現するために、公共図書館や図書ボランティアなどとネットワークを組み、本好きの子にしたいと願う教職員・保護者、そして児童自身の要望に応えながら、夢をふくらませ、知性を支える図書館運営を行っていききたいと思います。



障害のある子どもたちの地域生活をサポート

～養護学校・地域等連携推進事業～

京都府教育委員会では、ノーマライゼーションの実現を目指し、障害のある子どもたちが、身近な地域において豊かに生活していくことをサポートするため、本年度から医療・福祉等関係機関と連携しながら教育相談や小・中学校への支援を行う「養護学校・地域等連携推進事業」を実施しています。

本年度は、府立桃山養護学校、与謝の海養護学校において、精神科医や臨床心理士等の医療関係者や福祉、教育関係者等からなる専門家チームを設け、指導・助言をいただきながら次のような事業に取り組んでいます。

○地域等連携推進会議

障害のある子どもたちの地域生活を総合的にサポートするために、医療、福祉、労働等の関係機関とネットワークを構築しています。

○教育・巡回相談

障害のある子どもたちの子育てや地域生活の支援、学校生活等について、保護者や学校の先生方の相談に応じています。また、専門家チームとともに直接学校に訪問して相談を行っています。

○研修支援

障害や発達等について理解を深めるため、学校や地域の学習会等に講師を派遣しています。

○教材・教具の貸出

障害や発達に応じた教材・教具の貸し出しを行っています。

これらの取り組みにより、教育だけでは対応の難しかった課題について医療や福祉等との連携によって改善されるなど、保護者等からも高い評価を得ています。



教育局が再編されます！

●●● 教育局の再編概要 ●●●

～平成16年5月1日からスタート～

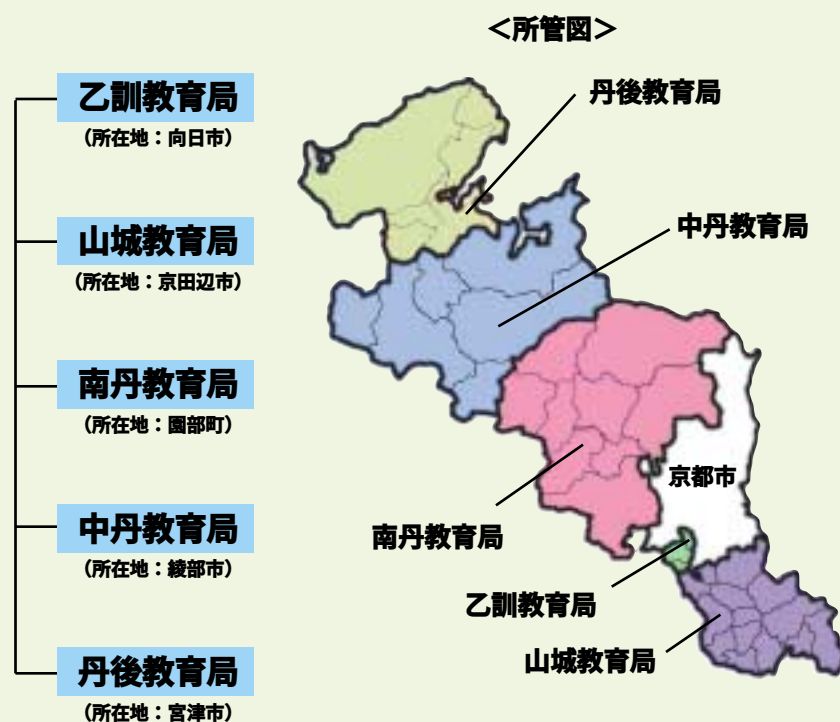
昭和47年に現在の教育局の原型ができました。その後、30年余りが経過し、児童・生徒数の急激な増加や減少などにより教育局間の不均衡が広がってきました。

京都府教育委員会では、現在の「7つの教育局」を「5つの教育局」に再編し、教育局間の均衡を図り、より効率的で専門性の高い執行体制を整備し、市町村教育委員会の主体的な取り組みの支援や、地域の教育課題に的確に対応することにより、地域の実情に応じた教育を推進していきます。

京都府の教育局は

再編後

こう変わります！



●市町村教育委員会への指導、助言、援助などの支援機能を充実することにより、市町村との連携を強化し、地域の教育課題に的確に対応していきます。

●府立高校改革を踏まえて、小・中・高等学校の連携を一層進め校種間にわたる横断的な教育課題への対応を強化していきます。

●事務の効率化を図る一方、専門的な支援体制を確立することで柔軟かつスピーディーに教育行政を推進します。

●本庁の権限の一部を移すことなどにより、教育行政の地域の拠点として、地域の実情に応じた教育を総合的に展開していきます。

「第50回日本伝統工芸展 京都展」を開催



第50回日本伝統工芸展京都展
(会場：京都高島屋)

シリーズ 文化財

平成15年10月29日（水）から11月3日（月）まで、「第50回日本伝統工芸展京都展」を開催したところ、約1万4千名の方が入場されました。

この展覧会は、歴史上、芸術上、特に価値の高い工芸技術を保護育成する催しで、京都展では全国入選作品から更に厳選された伝統工芸品301点を展示しました。また、府内3名の伝統工芸作家が文部科学大臣賞などを受賞しました。

京都展併設事業「伝統工芸子ども鑑賞コース」では、10月17日（金）、府立嵯峨野高校京都こすもす科において染織作家・木原明氏が「身近な染織」と題した特別授業をされ、生徒たちは染織作品などを間近に見て伝統工芸の素晴らしさ、奥深さを味わいました。

染織作家が 府立嵯峨野高校で特別授業



染織作家 特別授業